12領域の結果を整理する。

使用する日本語版の質問票で得た点数を転記してください。

49項目版専用。質問文・回答選択肢は掲載していません。

領域名は説明用訳。日本語版の出典・採点規則を必ず記録します。

氏名・ID：_____　評価日：_____

日本語版の出典・版：_____

回答対象：この1週間（　　月　　日 ~　　月　　日）

回答者・実施方法：_____　支援・欠測：_____

領域	項目数	合計	平均1–5	欠測数
活力	3			
家庭内の役割	3			
言語	5			
移動	6			
気分	5			
性格	3			
セルフケア	5			
社会的役割	5			
思考	3			
上肢機能	5			
視覚	3			
仕事・生産性	3			

計算前の確認

全項目回答時：領域平均 = その領域の合計 ÷ 項目数。

欠測を0点や推測値で埋めない。採用版の規則を確認し、未算出理由を残す。

構成参照：Williams et al., Stroke 1999;30:1362–1369. / NINDS CDE

総合得点の「計算法」を残す。

同じSS-QOLでも、総合得点の表し方を取り違えないようにします。

氏名・ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　評価日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

A　12領域平均の平均（1–5）

12個の領域平均の合計 ÷ 12

全12領域を算出できる場合。NINDS CDEのsummary score。

今回の採用：□　　得点：＿＿＿＿＿＿＿　未算出：□

B　49項目の単純合計（49–245）

49項目すべての点数を足した値

全49項目回答時。研究で用いる場合は計算法を明記。

今回の採用：□　　得点：＿＿＿＿＿＿＿　未算出：□

C　49項目平均（1–5）

49項目の単純合計 ÷ 49

Aとは重みづけが異なり、一般に同じ値になりません。

今回の採用：□　　得点：＿＿＿＿＿＿＿　未算出：□

採用した集計規則・出典：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

欠測の扱い・未算出理由：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

解釈のメモ

高い得点ほど良好な方向。0–100点や効用値に独自変換しない。

同じ合計でも、困っている領域は異なります。

前回と版・回答者・方法が異なるときは、その違いも記録。

次回も同じ方法で比較するための確認事項：

本人の実感を、次の支援へ。

領域ごとの変化と、実際の暮らしの変化を並べて確認します。

氏名・ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　今回：＿＿＿＿　前回：＿＿＿＿

比較する項目	前回	今回
注目する領域・平均		
総合得点・計算法		
本人回答 / 代理回答		
欠測・支援条件		

本人の言葉 / 大切にしたい活動

変化の背景 / 困りごと / 支援案

次に試すこと / 担当 / 再確認日

使う前に確認

本PDFは日本語版SS-QOLそのものではありません。

日本語版の出典・質問票・利用条件は、原報告や提供元で確認してください。

日本語版報告：https://doi.org/10.11477/mf.1552100670